

経営改善計画書(令和5年度～令和7年度)

団体名	公益財団法人 鳥取市文化財団	様式2
現状と課題	(現状)令和5年度の全施設入館者数が141, 028人で、令和6年度が124, 383人となり、昨年度より減少した形になっているが、当財団の管理施設である青谷上寺地遺跡展示館の閉館及び仁風閣の改修工事のため鳥取城跡・仁風閣展示館となり規模が縮小になったことを考慮すれば前年より入館者数は回復している。 インバウンドによる外国人観光客の回復もあり、特に体験型施設であるあおや和紙工房では紙すき体験や展覧会への来場者が大幅に増加し、開館以来過去最高入館者31, 185人を記録した。 また、あおや郷土館では、NHK朝のテレビ小説「虎に翼」との相乗効果もあり、鳥取市に縁のある日本初女性弁護士の中田正子さんの生涯を展示した展覧会が好評で、入館者のみならず学芸員の派遣講座や出張パネル展など館外での地域学習の要望が多数あった。 埋蔵文化財センターでは、鳥取地方裁判所の庁舎建替え事業に伴う発掘調査や民間の宅地造成事業に伴う発掘調査の大型事業の受託があり安定した運営ができています。 その他、中心市街地の賑わい創出や地域経済の活性化と地方創生の推進を図るため鳥取市観光コンベンション協会と連携しながら文化観光連携事業に取り組んだ。 (課題)施設利用者や入館者をいち早くコロナ前の水準に戻すよう常に右肩上がりを目指して活動し、目標達成に努めるとともに事業効果を分析しながら市民ニーズに合った活動をしていく。 令和7年度は、城下町とっとり交流館を除く指定管理施設が指定管理期間最終年度となるため、新たな事業方針を検討しながら引き続き指定管理者として管理運営できるよう職員一丸となって取り組んでいく。 鳥取県の最低賃金の上昇や働き方改革の推進、施設の老朽化や設備の耐用年数超過など経常経費の増加が大きく財政的にも大変厳しい状況に直面している。 埋蔵文化財センター事業では、鳥取地方裁判所の庁舎建替え事業や民間の宅地造成事業の大型事業が終了となるため、鳥取市教育委員会と連携を密に図り事業量の確保に努めていく必要がある。 経費節減はもとより、自主財源収入の増加や新たな事業収入の受託などの取り組みを強化し財源確保に努める必要がある。 職員の平均年齢の上昇もあり、財源を確保しながら人材育成に努め、若い職員の確保や安定就労を支えながら永続的かつ安定的な経営改善が課題となっている。	
経営方針 (令和7年度目標)	1. 地域教育 地域の学校教育と連携し、家庭教育の向上に貢献し、地域住民の文化的教養を高め生涯学習の充実に努め、学校・家庭・地域住民及び地域組織と相互連携を図りながら、地域の社会教育の振興に寄与する。 2. 文化創造 地域の貴重な文化資源を発掘し収集保存・調査研究・展示公開・教育普及等により、学術の発展・文化芸術の振興及び郷土愛の醸成をはかり、市民文化の発展へ寄与し、過去・現在・未来への文化の伝達者として、市民・研究者・各種団体等と共同して、地域の文化の保全・再生・創造の促進に寄与する。 3. 地域創生 地域の文化資源を活用して新たな価値を創造し地域の活性化を図り、地域を担う人材の育成及びまちづくりに貢献し、地域の観光・産業・経済・福祉の各種団体と連携して、地域を創生しその振興に寄与する。	

視点	7年度目標 (期間内の最終目標)	年度	実行計画		実績		分析、評価コメント (経営改善効果)	市担当課コメント
			取組内容	目標値	取組状況	実績値		
経営改革 (財務面での 長期見通し)	自主財源比率の向上に努める。 (自主財源比率10%以上)【仁風閣、上寺地、埋蔵文化センター	5年度	入館料等自主財源の増加(関連物品販売を除く)	R1年度対比3%増加	新型コロナウイルス感染症の感染症分類引き下げに伴い、入館者の呼び戻しを強化し、12年ぶりの咲鳴園の公開や4年ぶりとなる傘踊りの祭典や国府まつりとの連携に取り組んだ。 また、あおや郷土館の開館30周年記念で展覧会や各種イベントを実施した。 あおや和紙工房では、初めて夜間開館をする等新し客層の呼び込みにも力を入れた。	R1年度対比10.7%減少	鳥取市歴史博物館での日本海新聞社との共催展の開催が実施できなかったため、大幅に入館者数、入館料、施設使用料が減少した。 因幡万葉歴史館での元号制定効果時までの回復が及ばなかった。	
			関連物品販売事業収入の増加	R1年度対比3%増加	因幡万葉歴史館での鳥取民藝品の食器を用いた喫茶や高砂屋での展示販売等利用者の満足度を高める取り組みを行っている。 新商品の開発や展覧会等に関連するグッズの販売を行いながら収入の増加を図っている。	R1年度対比16.1%減少	入館者数の伸び悩みもあり販売収入の増加に繋がらなかった。高砂屋では喫茶業務の強化や駄菓子販売など新たな取り組みを実施する予定であり収入増加に努めていく。	
			個人・団体ツアー客の増加	年間300件	上寺地遺跡展示館の開館や仁風閣の休館を広くPRしツアー客の増加に繋がれた。	年間567件	入出の回復により旅行者、インバウンドの利用が増加した。	
			補助金、助成金等の申請	新規1件以上	鳥取から「鳥取民藝を活用した誘客事業」の受託 新鳥取駅前地区商店街振興組合から「面的地域価値の向上・消費増出事業」の受託 鳥取労働局から「勤怠管理ソフト導入」に伴う助成金	3件	今度も情報収集をしながら地域との連携・協力を強化し新たな事業の受託を進めていく。	
		6年度	入館料等自主財源の増加(関連物品販売を除く)	R1年度対比6%増加	鳥取市あおや和紙工房で開催した「リトの葉っぱ切り絵展」が大好評で、11,000人を超える入館者数があり、入館料収入の大幅な増加があった。併せて、紙漣き体験者の回復や染め和紙体験などの新しいメニューの提供にも取り組んだ。 また、因幡万葉歴史館の開館30周年記念を、鳥取市歴史博物館と連携しながら展覧会を実施し、特別展示室の活用や万葉歴史館での喫茶メニューの開発などで来館者の増加に努めた。	R1年度対比0.15%増加	鳥取市あおや和紙工房以外の施設での入館者数、入館料収入の増加が図れなかったため目標値までの水準に回復できなかった。 しかしながら、昨年度実績よりは上回っており、今後さらに魅力ある展覧会の開催に努めていきたい。	入館者数はコロナ前の水準に向けての回復途上であり、期間を通じて実行計画の目標値には到達できなかった。 引き続き入館者数の増加、自主財源比率の向上に努めていただきたい。
			関連物品販売事業収入の増加	R1年度対比6%増加	展覧会開催に合わせた商品選定を行い、魅力ある物品販売に努めた。 鳥取市因幡万葉歴史館開館30周年を記念し、万葉歴史館喫茶室にて全国の万葉故地6か所のお菓子と抹茶の提供を行った。	R1年度対比13.1%減少	鳥取市あおや和紙工房の入館者数増加に合わせ、関連物品の販売が好調であった。 万葉歴史館開館30周年記念事業では、展覧会場は鳥取市歴史博物館であるが、普段食べることができないお菓子を取り寄せ万葉歴史館で提供することにより、商館の連携を深めるとともに来館者の導線を確認することができた。	
			個人・団体ツアー客の増加	年間400件	大型の団体ツアーが減少し、個人や小規模のツアーに移行している状況を鑑み、道の駅や高遠道路SAへのチラシ配布を行った。 インバウンドによる外国人旅行者に対し、タブレットを活用した翻訳アプリなどで対応した。	年間305件	仁風閣の休館に伴い、団体ツアー客の減少が大きく響いた。 今後は、小規模旅行や個人ツアーなどを対象としたメニューや受入環境を充実させていきたい。	
			補助金、助成金等の申請	新規1件以上	伝統工芸等後継者育成支援事業の補助事業採択 因州和紙後継者育成体験講座事業の受託 文化観光連携事業の受託	3件	今度も情報収集をしながら地域との連携・協力を強化し新たな事業の受託を進めていく。	

視 点	7年度目標 (期間内の 最終目標)	年 度	実行計画		実績		分析、評価コメント（経営改善効果）	市担当課コメント
			取組内容	目標値	取組状況	実績値		
	「、事務局除く」	7年度	入館料等自主財源の増加(関連物品販売を除く)	R1年度対比10%増加	各施設において、特別展、企画展の実施及び各種体験学習や教育普及事業の開催を年間通して行った。 万葉歴史館でのカルチャースクールにおいて、教室の選定、受講者人数の確保に努めた。 マスコミ等を活用し、広くPRを行い来館者確保に努めた。	R1年度対比12.2%減少	前年度実施した展覧会が爆発的な人気となり、そのリバウンドで入館者数が伸び悩んだ。 新日本海新聞社とのタイアップ展が軟調に推移し目標に達しなかった。	
			関連物品販売事業収入の増加	R1年度対比10%増加	新商品の取り扱い及び開発を行った。 城下町とつとり交流館の土間を活用した「駄菓子屋」を新たにオープンさせた。 イベントに関連して商品販売の促進を図った。	R1年度対比0.8%増加	あおや和紙工房において、鳥取県や鳥取市からの受注販売があり売り上げが増加した。城下町とつとり交流館にて、新たに土間を活用した「駄菓子屋」事業を展開し、利用者及び売り上げが増加した。	
			個人・団体ツアー客の増加	年間500件	鳥取市観光コンベンション協会へ職員を出向させ連携を図った。 道の駅、高速道路SAにチラシ等を配布した。	年間302件		
			補助金、助成金等の申請	新規1件以上	個人からの一般寄付 青谷町遺族会資料データ作成の受託 令和の万葉大茶会2025飛鳥・万博大会事業の受託 文化観光連携事業の受託	4件	今度も情報収集をしながら地域との連携・協力を強化し新たな事業の受託を進めていく。	
組織改革 (組織見直し、人材育成)	率50歳以下の常用55%以上(正職員、嘱託職員)の雇用比率を上げる。(常用55%以上)	5年度	人員体制の見直し		本年度末での閉館、休館施設の人員の配置も考慮し新たな採用等を行わなかった。			
			人材育成のための職員研修	年間5件以上	「労働時間の適正な管理に関する職員研修会」 「外国人おもてなし講座(韓国語)」 「新たな公益法人制度を目指して」ほか人権研修等	年間8件		
			労務環境や関連規則の整備		鳥取県最低賃金改正による嘱託・臨時職員の賃金の見直しを行った。			
		6年度	人員体制の見直し		鳥取市青谷上寺地遺跡展示館職員の配置換え、仁風閣・宝扇庵職員の削減など、閉館・休館施設の職員の配置換えを含め財団全体の職員体制を見直しした。			期間を通じて人員体制の見直し、強化が図られた。職員研修については、目標値を上回っている。人材育成のため、引き続き取り組んでいきたい。
			人材育成のための職員研修	年間5件以上	「鳥取県ミュージアムネットワーク研修会」 「文化財虫害防除作業講習会」 「公益法人実務セミナー」ほか人権研修、おもてなし講座等	年間13件		
			労務環境や関連規則の整備		鳥取県最低賃金改正による嘱託・臨時職員の賃金の見直しを行った。 育児介護休業法改正にともなう諸規程の改正及び労使協定の締結を行った。			
		7年度	人員体制の見直し		人事異動を行い組織体制の強化を図った			
			人材育成のための職員研修	年間5件以上	「ハラスメント研修会」 「外国人おもてなし講座(中国語)(韓国語)」 「文化財虫害・保存対策研修」 「国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会」ほか	年間12件		
			労務環境や関連規則の整備		鳥取県最低賃金改正による嘱託・臨時職員の賃金の見直しを行った。 育児介護休業法改正にともなう諸規程の改正及び労使協定の締結を行った。			
公益増進 (顧客サービスの向上、社会貢献)	にメディアを活用した入館情報公開、誘客活動を促進し、風情各種団体等との連携を図り利用者の増加に努める。(全団体入館情報公開、誘客活動を促進し、風情各種団体等との連携を図り利用者の増加に努める。)	5年度	HP、SNSを活用した情報発信		各施設のHP、FBでの情報発信に加え、YouTube番組の制作・配信を行った。			各施設のHP、SNSでの情報発信に努め、幅広い年齢層へのPRを行っている。市民からの資料相談等への対応、自治体や公民館、地域団体などへの講師派遣については、期間を通じて目標値を上回った。今後も地域の教育活動、文化活動に貢献し、利用者の増進に努めていきたい。
			市民の資料相談件数の増加	年間100件以上	資料相談室の開催、古文書の相談など市民の問い合わせに対応した。	年間122件		
			職員・専門員の講師派遣件数の増加	年間30件以上	自治体や公民館、地域団体などの要請を受け、地域の歴史文化の解説や市民の文化度向上のため学芸員等を派遣した。	年間36件		
			小・中学校等の学校利用件数の増加	年間100件以上	博学連携だよりなどを小・中学校に配布し、学習指導要領に基づいたプログラムの提供を行い利用促進を図った。	年間159件		
			地域団体、実行委員会等が行う事業との連携	年間1件以上	新鳥取駅前地区商店街振興組合・鳥取太平線通り商店街振興組合 「鳥取民藝を活用した誘客事業」 新鳥取駅前地区商店街振興組合「面的地域価値の向上・消費創出事業」 鳥取太平線通り商店街振興組合「商店街にぎわい形成促進支援事業」	年間3件		
		6年度	HP、SNSを活用した情報発信		各施設のHP、FBでの情報発信に加え、YouTube番組の制作・配信を行った。 ホームページ用のサーバープログラムのバージョンアップを行った。 新たに各施設のInstagramを開設し、Facebookとの連携を図り幅広い年齢層へのPRを行った。			
			市民の資料相談件数の増加	年間100件以上	資料相談室の開催、古文書の相談など市民の問い合わせに対応した。	年間169件		
			職員・専門員の講師派遣件数の増加	年間30件以上	自治体や公民館、地域団体などの要請を受け、地域の歴史文化の解説や市民の文化度向上のため学芸員等を派遣した。	年間45件	あおや郷土館で開催した「中田正子」展の効果もあり、市民からの資料相談等への対応、自治体や公民館、地域団体などへの講師派遣については、期間を通じて目標値を上回った。今後も地域の教育活動、文化活動に貢献し、利用者の増進に努めていきたい。	
			小・中学校等の学校利用件数の増加	年間100件以上	博学連携だよりなどを小・中学校に配布し、学習指導要領に基づいたプログラムの提供を行い利用促進を図った。	年間108件		
			地域団体、実行委員会等が行う事業との連携	年間1件以上	鳥取商工会議所 「歴史的資源を活用した観光まちづくり推進事業」	年間1件		
		7年度	HP、SNSを活用した情報発信		各施設のHP、FBでの情報発信及びYouTube番組の配信を行った。 InstagramとFacebookとの連携を図り幅広い年齢層へのPRを行った。 情報発信の更新回数を強化した。		フォロワー数の増加	
			市民の資料相談件数の増加	年間100件以上	資料相談室の開催、古文書の相談など市民の問い合わせに対応した。	年間143件		
			職員・専門員の講師派遣件数の増加	年間30件以上	自治体や公民館、地域団体などの要請を受け、地域の歴史文化の解説や市民の文化度向上のため学芸員等を派遣した。	年間34件		
			小・中学校等の学校利用件数の増加	年間100件以上	教員とのコミュニケーションを図り利用の促進に努めた。 中学生の職場体験学習の受入れ等で学校との連携を図った。 地域学習への取り組みに協力し、講師の派遣や受け入れを行った。	年間93件	鳥取市教育委員会の文書箱の利用ができなくなり、各学校へのチラシ等の配布ができなくなった。 バスの借り上げ料の増加や利用校の固定化により、博学連携事業の見直しを行うため休止とした。	
			地域団体、実行委員会等が行う事業との連携	年間1件以上	新鳥取駅前地区商店街振興組合 鳥取太平線通り商店街振興組合 「商店街にぎわい形成促進支援事業」	年間1件		